地区広報
芸術の森

題字　平澤　博

第15号
平成21年11月30日
発行　地区広報・芸術の森
編集委員会
印刷　（株）辻　孔　版　社

芸術の森地区まちづくりセンターの自主運営が決まりました

芸術の森地区町内会連合会　会長　関　口　明

当地区の町内会連合会は、発足当初より収入の多くを簡易保険団体からの繰入金に頼り、各種事業や行事も進められてきました。

しかし、郵政公社より平成18年９月時点で存続の可否が問われ、高いハードルが設定されました。このため、存続を希望した連町は、全市で４連町にまで減少しました。

簡易保険の仕組みも大きく変わり、新規加入や満期に達した後の継続もできなくなりました。これにより当連町の収入は減収を続けることとなり、行事や事業の継続に支障をきたす時期に入りました。

この打開策として取組んできたのがまちづくりセンターの自主運営です。これまでの取組み状況と自主運営が決定するまでの経過等について、概要をお知らせします。

◆自主運営の検討経過について

◎連町の重点活動の一つとして

平成20年７月の「まちづくり推進会議」における市の出前講座を皮切りに、先行していた石山連町へ出向いての勉強会をはじめ、連町三役会、理事会での検討、女性部、社協常任委員会、青少年育成委員会等での説明を行い、本年４月の連町定期総会において重点活動の一つに加えられました。

◎地区まちづくり推進会議に自主運営検討委員会を設置

６月１日のまちづくり推進会議総会で自主運営検討委員会の設置が決まりました。検討委員会は３回開催され、推進会議ニュースの発行や地区の皆さんへの説明会の開催などについて話し合われました。

◎地区の皆さんへの周知

推進会議ニュース第１号と第２号および地区広報・芸術の森第14号（関口会長執筆・まちづくりセンター自主運営の説明）を全戸に配布し、周知に努めてきました。

９月１日には、まちづくり推進会議総会・臨時会を開催し、自主運営の説明のほか出席者より意見をお聞きしました。

◆地区まちづくり推進会議が業務委託契約の受け皿に

自主運営化の検討過程で、地区内で幅広く組織されている地区まちづくり推進会議が、地区を代表する組織として相応しいものと判断され、札幌市と業務委託契約を結ぶことになりました。

◆まちづくりセンター自主運営の決定

17回におよぶ連町とまちづくり推進会議の検討結果を踏まえ、10月13日のまちづくり推進会議総会において、まちづくりセンターの自主運営が決まりました。これに基づいて10月28日に札幌市に対して「まちづくりセンター地域自主運営申出書」を提出しました。

なお、札幌市との地域自主運営の委託契約締結は12月下旬、センター引継ぎは明年１月より、地域単独の自主運営開始は４月を予定しております。

平成21年度芸術の森地区「雪あかりの祭典」概要

企画部

芸術の森地区「雪あかりの祭典」は、今年度４回目を迎えます。10月９日に実行委員会を行い、その概要が決まりましたのでお知らせいたします。

１．芸術の森地区（開催日：平成22年１月23日）

札幌市立大学・芸術の森・関口雄揮記念美術館・常盤児童会館

(1)札幌市立大学

- 12月１日からイルミネーション点灯
- 餅つき（芸術の森と検討して場所決定）

(2)常盤児童会館

- １月20日～22日：雪像づくり
- １月23日：イルミネーション点灯式

２．石山緑地地区（開催日：平成22年２月６～７日）

南老人福祉センター・見晴町内会（共同開催）

- 12月５日～２月中旬：イルミネーション点灯
- イグルー作成・甘酒、豚汁、おしるこ、芋の塩焼き等無料提供

３．駒岡地区

駒岡小学校スノーフェスタ（開催日：平成22年２月４～５日）

- 餅つき

保養センター駒岡冬まつり（開催日：平成22年２月11日）

詳細が決まりましたら、回覧でお知らせいたします。

クリーンさっぽろ芸森地区委員会活動から

環境衛生部

★不法投棄監視活動

連町「まちづくり事業」関連の「ごみ対策」に向け立ち上げられた「不法投棄監視員ボランティア」の活動の中には、“無理なく続けられる活動”として「(ごみ不法投棄などの)通報」行為があります。今年度は常盤台地区の定池さんをはじめ、これまでになく数多くの方々からご協力をいただいており、常盤二区や真駒内三団、真駒内駒岡地区などのように、監視員を通して清掃事務所やごみパト隊に通報・処理されるなど、期待に近い効果をみてきました。ありがとうございました。

ただ、ご承知のように当芸森地域は、「芸術の森」「滝野すずらん丘陵公園」、そして「支笏・洞爺国立公園」等へ至る幹線を抱えており、更にこれらは真駒内・滝野線、石山・穴の沢線等と共に観光・レジャーのほか通勤経路にもなっている関係からか未だゴミの不法投棄が続いており、今後ともこの種の活動は継続すべきものと思っております。

★不法投棄回収活動

年度事業の一つとして平成18年から続けている不法投棄物の回収活動は、これまで主に石山２・３号線を対象としてきましたが、今年は同線を(一緒に行ってきた)「カッコウの里を語る会」のみなさんにお願い(10月10日実施済)し、当部は10月31日(当初予定の11月３日は“降雪”予報があり、急遽繰り上げて一部関係者により実施)に、真駒内・滝野線―新・旧道の回収作業を行いました。

前述、監視活動でも述べましたように、真駒内・滝野線沿いには、ゴルフ場などのほか滝野霊園、滝野すずらん公園があり、更に国道36号―清田区に至る幹線にも通じるため、交通量は以外に多く、比例して、ペットボトル・缶等のポイ捨ても後を絶たない(時々テレビ等大型ごみもあって、その都度南清掃事務所の手を煩わせている)状態です。

それでも今年は、各地区の「不法投棄監視員ボランティア」の活躍があり、思ったほどの投棄物が多くなかったことがなによりでありました。

ご協力・ご参加いただいた多くの方々に重ねてお礼を申し上げます。

大規模防災訓練実施

石山東小学校区　**小学生・地域住民 430名参加**

10月３日(土)、石山東小学校を避難場所とする４町内会(見晴・東・石山八区・常盤台)は、小学校と共同で大規模な防災訓練を実施しました。

震度６強の地震が発生したという想定で、各町内会は自主防災隊を編成し、徒歩で小学校まで行く間、避難経路の障害、火災等への対応を検討しつつ移動し、体育館内で授業参観の児童・保護者と一体となり防災訓練に参加するというものでした。

次々と、徒歩で集まる地域の人たちで広い体育館内は埋め尽くされました。看護士による車椅子の指導を受けての訓練、簡易トイレ、AEDの使用方法、保存食の試食、バケツリレー、煙道体験等、多くの体験をすることができました。80歳を超える方から0歳の子どもを抱いた保護者の参加、元気な子どもたちも初めての体験に多くのことを学んだようでした。熱気に溢れた体育館内、参加者数430名。

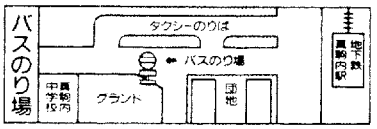
永久に生きる花と緑の明るい聖地

真駒内滝野霊園

札幌市許認可霊園

(無料) 見学・墓参バス運行中

時間　午前 10:00　午後 12:00　午後 2:00



お問合せ・お申込みは　真駒内滝野霊園事務所 ☎(011)592-1223(代表)

交通安全教室開催　交通安全部

道路には道路標識や道路マークがあって、規則や約束ごとがあります。

そこで、忘れかけているマナーやルールを先ず自分たちが復習してよく理解することが地区の交通事故防止にもつながると、交通安全母の会・交通安全指導員の協力も得て、去る９月25日(金)、「勉強会」を開催しました。

講師には見晴町内会在住で、元Ａｎｋｙｏ自動車学園長・現在交通安全指導員として活躍中の川口興麿さんをお願いしました。講演は「交通安全よもやま話」と題し、川口講師自ら撮影した芸術の森地区近郊のスライドを通して、身近な事故事例を判りやすく解説してくれました。講演は大へん好評で、68名の参加がありました。

警察庁の年齢層別交通事故比数によりますと、平成20年中の交通事故死者数は、[65歳以上の高齢者]が48.5％と約半数を占め、その47.7％が歩行中で、その内68.2％が夜間の事故といわれています。高齢歩行者を対象とした事故防止策には交通安全教育など一般的とわれますが、泥酔者や徘徊高齢者など危険な歩行者に対して、効果的な教育は期待できないといいます。講師は解説の中で「だろう」運転は非常に危険であると教えていました。自動車を夜間使用する時、危険な歩行者が車道に突然出てくると想定して誰が走るでしょうか。「止まるだろう」「止めるだろう」は止まる保障は無いのです。

「青信号」は交差点や横断歩道で誰もが安心して向こう側に渡れる信号色です。本当に安心ですか？信号を見落としたり、勘違いしたドライバーが間違って入ってくることもあります。交差点で事故を起こしたドライバーはお互いに自分の信号は青だったと主張するそうです。ともあれ、「青信号」も赤信号に変わる前の色であることを知っておこうではありませんか。

講演会開催　遺言書の必要性を認識しました　女性部

10月15日、恒例となりました女性部主催による講演会を実施しました。今年度は「他界後残された人が、諸手続きで困らないために…」というテーマで、重いとはいえ避けては通れない内容に敢えて照準を当ててみました。

講師に公証役場の川口登喜男氏をお願いし、具体例を聞きながら説明を受けました。

遺言書を作るのは男性より女性が３倍ほど多いこと。満15歳から作成は可能であること。日本は外国に比べ遺言書の作成率は少ないが、近年増加していること。争いになるケースが書面のあることにより救われること等。具体的な手数料なども提示され説明がなされました。

また、判断能力が衰えることを考え、任意後見人を考えることの必要性も話されました。

この地域住民の高齢化率は高く、参加者は身近な問題としてとらえ質問も多く出されました。参加者数40名。

「暖かい　ことばかけ」の大切さを強調

あなたの「一声」が子どもたちを育てます

芸術の森「子どもを見守るネットワーク」研修会終わる

去る10月21日札幌市子ども未来局子ども育成部少年育成指導員の佐藤嘉代子様を講師にお招きし、最近の子どもを取り巻く環境の現状と課題について約２時間にわたり講演をいただきました。

講演の中で、南区内で育成指導員の方々が指導された件数の多いこと、家庭での躾の大切さ、暖かい言葉かけの大切さなどが話され、参加者一同それぞれの立場で、考えさせられることが多くありました。

子どもたちの心の中に潜むもの、寂しがりや、見過ごされることの危機、[一声のかけ方」の大切さについて、具体例を挙げながら説明がなされました。又、育成員の方と参加者代表による実演――通行中に接したときの相手の姿・持ち物などの記憶――は、的中に場内拍手で包まれるほどでした。

当地区は、子育てに恵まれている地区とは思いますが、子どもたちの行動範囲の広さから、十分注意をする必要性を再確認させられた研修会でした。

インフルエンザ多発中にも拘わらず、学校・保護者・地域の方々50余名の参加がありました。

もりの仲間のさわやかクラブ
ハツラツ介護予防

社会福祉協議会　高齢者支援部

第一回　石山東町内会、第二回　常盤団地町内会、そして、第三回は、アートパークタウン町内会で、行ないました。皆さん健康には、関心が高く、ときわ病院院長　宮澤　仁朗先生の「認知症の早期発見と予防」の講演を、熱心に聴いていました。緑茶や赤ワインを、飲む人や、カレーライスを良く食べる方は、認知症になりにくいとか……。また、散歩も認知症予防にはとても良いそうです。皆様のご参加を、お待ちしています。

福祉施設見学会

10月26日(月)、時折小雨のぱらつく中、８町内会から、34名の参加で、千歳サケのふるさと館と、岩見沢市栗沢町にある北海道社会福祉事業団、福祉村を見学しました。

サケのふるさと館では、千歳川の水中観察や巨大水槽のイトウやニジマスやブラウントラウト、シロチョウザメなど見ることができました。残念ながら、インディアン水車にサケは獲れていませんでした。サケやチョウザメの赤ちゃんが、とても可愛くて、しばらく見ていました。それから、一時間ほどバスに乗って福祉村に着きました。以前、石山東にあるもなみ学園に居たことのある職員にお話を聞いた後、

２班に分かれて案内してもらいました。広々とした敷地内に立派な施設で、明るく開放された感じがしました。各自のお部屋は、個室でプライバシーが尊重され、自主的に生活することを基本としているそうです。が、個室は全国でもあまり例がなく、大変画期的なことだそうです。入所者の方々と、すれ違うたびに「こんにちは」と挨拶をしました。売店も入所者の人たちで、運営していました。また、介護は同性の職員がするそうなので、他の施設より男性職員の数が、多いのだそうです。お話は尽きなく、予定より30分遅れで福祉村を後にしました。そして、定刻16時には、芸術の森まちづくりセンターに帰ってきました。参加してくださった皆様お疲れ様でした。

もりの仲間の三世代交流会

社会福祉協議会ふれあい部

恒例となりました三世代交流会の事業も今年で８年目を迎えました。去る９月５日は天候にも恵まれ、秋晴れの下、地域で収穫したばかりの枝豆、とうきび、じゃが芋を薪ストーブでゆで、秋の味覚を楽しみました。会場となった常盤児童会館は、子どもたちの声、お年寄りの方々の笑顔でいっぱいになりました。

今年度は新型インフルエンザの影響なのか、参加者が少なかったようでしたが、参加者は交流を楽しんでいました。

ママ友 沢山できました

もりの仲間の子育てサロン

社会福祉協議会　子育て支援部

０歳から就園前の親子が集うこのサロンは「ママ友」の出会う場です。「何ヶ月？」から始まり、産院のこと、検診のこと、泣くとき、笑うとき、おもちゃのこと等‥‥０歳児を持つお母さんは同じような時間を過ごしている“仲間”がいることの安心感で話題は尽きません。携帯メールアドレスの交換の場です。

体遊びもできるよ

芋ほり楽しいね

はじめまして‥

ペイプサート楽しいよ

２・３歳のお友達はお絵かき・本読み・動くのが大好き‥‥ママも一緒に遊んだり、お友達と色々なお話―幼稚園選びの話も―しています。６～８名のボランティアが常時います。

月２回、第１、第３水曜日10:00～11:30、芸術の森地区福祉の街推進センター(南老人福祉センター内)、無料。(M)

文化祭

作品の芸術性の高さに感動

スライドで観る地域の一年も好評

文化部・G.N.C.

去る11月２日・３日には、連合町内会恒例の文化祭が開催されました。

陶芸・書道・手工芸・写真・水墨画・生花等々が飾られ、地域の方々の多様な趣味と、高度な芸術性に接し、存分に楽しむことができました。出展参加者数64名、出展数117点。

又、今年で３回目となるG.N.C.による写真展も同時開催し、今年は芸術の森地区の美しい風景に加え、地域で開催する一年間の行事をスライド上映しました。映像による地域行事の紹介は、地域の力強さ・暖かさの再確認となり、来場された方々にたいへん好評でした。

クリーンさっぽろ芸森地区委

「出前講座」

９月９日、各単位町内会会長、地区推進委員、単位町内会女性部長等約30名が参集し、「ルール変更に伴う現況と今後の課題」と題する南清掃事務所の出前講座及び意見交換会が開かれました。

７月１日（ルール変更）以後、「燃やせるゴミ」42％、「燃やせないゴミ」81％と大幅に減少していることと、「資源ごみ」の増加が紹介され、そして、「雑がみの分け方・出し方」の励行が要望（各単町宛「回覧」として配布済）されました。そのあと、区分けの細部や回収時間の是非等についても意見交換しましたが、この夜は新ルールの励行を再確認する集いとなりました。（H）

東っ子クラブが誕生しました

石山東小学校・地域連携事業運営委員会

石山東小学校で新しい事業がスタートしました。

放課後の子どもの居場所作りということは以前から保護者の要望が出されていたところでしたが、この７月から、同小学校の図書室を使って実施しています。「東っ子クラブ」という名称は、集まった子どもたちとボランティアさんのアイデアで作られたものです。

折り紙・お絵かき・工作・読書等々、子どもたちはいったん帰宅することなく、ボランティアさんが見守る中で安心して放課後の時間を過ごすことができます。「お星様作ったよ」「牛乳パックのおもちゃできたよ。弟にも作ってあげるんだ」等、ボランティアさんとの会話も弾みます。図書室には和やかな空気が流れています。

毎月第１・第３水曜日に開催。夏季は17:30、秋冬季は16:30まで開催で、帰宅には保護者又は信頼できる人の迎えがあって一緒に帰ることになります。スタートしたばかりですが、地域、親子の期待するところは大きく、今後は子どもたちの要望をくみながら事業を充実させていきたいと思います。

太鼓・唄・踊り・ゲームに綿あめ・・・

歓声の絶えない

夏祭り

8月12日実施
南老人福祉センターにて

去る８月12日、南老人福祉センターに盆踊りの唄・笛・太鼓の音が響きました。お年寄りから幼児まで誰でも参加大歓迎の「夏祭り」が実施されました。

踊りが根っから大好きな様子の年配の方、ヨーヨーを釣って大喜びの子ども、射的で大当たりの子ども、夏休みも終わりに近く、浴衣姿が似合う小学生・幼児たちが大勢集まりました。常盤児童会館に通う子どもたちも大勢参加し楽しんでいました。放課後や学校が休みのとき、児童会館で過ごす子達は沢山いますが、この日はちょっと違う場で楽しめたようです。本会場・福祉のまち推進センターで実施している子育てサロンに通う子どものお母さんたちは「今月はサロンが３回あるみたい」と話していました。

老人福祉センターは、普段は60歳以上の方々が集う場です。この日、民謡講座の受講生の方々が自慢ののどと笛を披露してくれました。ヅシンと響く太鼓の音は、見晴町内会青少年部を中心に石山東小学校や常盤中学校に通う子たちの練習の成果です。射的･ヨーヨー釣り・綿あめ・ジュース等のサービスはこの老人福祉センター喫茶コーナーを担当する「しらかば」のボランティアの方々のお手伝いによるものでした。

福祉除雪サービスのご案内

★「地域協力員の募集」について★

毎年度、70歳以上の高齢者世帯や障害のある方で構成されている世帯などを対象に、地域協力員などの協力を得て実施している冬季間の「福祉除雪サービス」は、今年度もつぎのとおり行われます。（概要）

今年度の福祉除雪は、今のところ南区の10地区全体で、527件（昨年度492件）、このうち芸術の森地区は、40件（昨年度37件）となっており、これを協力員（昨年度448名で、本年度は取りまとめ中）の方の協力で行われます。

○除雪内容：
・間口部分（道路に面した出入り口部分）を、概ね幅1.5m
・敷地内は、玄関先までの通路部分を歩行に支障のない程度、概ね幅80cm

○除雪日時：
・道路除雪の行われた日の午前中

○除雪期間：
・平成21年12月１日（火）～平成22年３月25日（木）

★★福祉除雪「地域協力員」の募集★★

福祉除雪に協力していただける「地域協力員」を募集しております。

性別、年齢は、問いません。どなたでも参加いただけます。

問合せ先：社会福祉法人　南区社会福祉協議会
（南区役所Ｆ３）TEL 582−2415

福祉を支える人　関口 智子さん

プロフィール

昭和12年１月３日帯広で出生。帯広柏葉高校卒。伊藤組10年、札幌少年鑑別所22年勤務。36年結婚。長男家族と同居。職務精励で法務大臣より表彰受ける。

地域でゴミ拾いをされているというご本人を訪問すると開口一番「中学、高校時代陸上競技（投てき）で全道大会に出場しました」と、返事が返ってきた。

青春時代は、スポーツに熱中した一端を覗かせる。話は途切れなく続く「2007年ノルデック世界選手権札幌大会では、ボランティアとして参加させてもらいました。選手の活躍を目の辺りにして感動しました」。（伊藤組会長は1979年から国際スキー連盟副会長を務めており2007年ノルデック世界選手権札幌大会開催に尽力し、４度目の立候補で招致に成功したことが分かりました）。

スポーツの世界にのめりこんでいく過程がよく分かる。今は、北海道でマラソン大会があるたびにスポーツボランティアとして、大会運営に協力させてもらっています。ゴミ拾いの動機を伺うと、腰痛で筋肉を鍛える筋トレウォーキングを始めました。道中歩いていると、ゴミが目に付き拾うようになった。今、地区内外から『ゴミのない地域』と云ってもらえるのが嬉しい」とのこと。

今春まで駒岡団地町内会で総括総務をされていたと言うから、何事にも積極的に行動するタイプと見受けた。何時までも、地域のキーパーソンであり続けてほしいと願った。

芸術の森地区青少年育成委員会

札幌市青少年育成委員会からのお知らせ！

皆さん、青少年育成委員会をご存知でしょうか。

青少年育成委員会は、昭和29年に札幌市長を会長とした「青少年問題協議会」を前身として、時代の移り変わりや教育環境の変化とともに制度の見直しが行われ、昭和61年に組織的な活動の展開を目指して「青少年育成委員会制度」が確立しました。

現在、90地区（連合町内会単位）で組織され、約1800名の委員が、札幌市長から選任され、青少年の健全育成のため様々な活動を展開しています。

芸術の森地区青少年育成委員会は、前口会長を中心として、芸術の森地区の各団体から推薦された15名の委員が活動しており、その任期は３年です。

活動の一端として、常盤神社祭や各地区の盆踊りの際の地区パトロール、もちつき大会、こどもスキー教室、ドッジボール大会（常盤は南区で２連覇）、音楽祭支援、教育フォーラム支援等、成人式行事支援のほか、札幌市が開催する各種研修会への参加等により研修を重ねています。

このほか、各種行事等を通じ、地域の皆さんとの交流を深めているほか、委員同士の連携を深めるため、親睦会や忘年会などにより、和気あいあいとした委員会として活動しています。

是非、青少年育成委員会の活動にご理解をいただくとともに、委員として活動してみたいと意欲のある方は、町内会長等に相談してみてください。

交流「もちつき大会」の開催

小中学生、親子を対象とした恒例の交流もちつき大会を開催します。多数のご参加をお待ちしております。みんなでおもちをついて、家族で食べ交流を深めましょう。

◎日時　12月13日（日）
　　10時半～11時半　小学生親子
　　11時半～13時　中学生
◎場所　常盤児童会館
◎主催　芸術の森地区青少年育成委員会

駒岡小学校開校60周年記念式典・祝う会挙行

テーマ　未来につなぐ　駒岡の森と子どもたち

駒岡小学校　教頭
矢　嶋　一　昭

10月14日（水）駒岡小学校体育館に於きまして、「開校60周年記念式典、祝う会」を駒岡小の子どもたちや教職員、来賓・地域の皆さんなど184名が参加して開催いたしました。

駒岡小は、昭和24年豊平町立駒岡小学校として設立され、昭和52年通学区域が自由な特認入学指定校となり、学校林の自然を生かした特色ある少人数教育を展開し、今年、開校60周年目を迎えました。

山本　宏校長が式辞の中で、これまでの歴史にふれ、開校当初から学校林を活用した教育活動を実施してきたことが子どもたちの環境教育への意識付けになったことを説明しました。また、本校２代目伴　順一校長の息子であり駒岡の森とゆかりが深い元林野庁長官の伴　次雄氏の手紙を紹介しました。「駒岡に学ぶ子どもたちの心の中に感性の土台がはぐくまれ、自然を慈しむ心が育っていくことを確信し、教育を一層豊かに推進していくことを願っています。」駒岡での思い出と駒岡の子どもたちと学校への熱い願いと想いがこめられたメッセージでした。

来賓として列席された札幌市教育委員会の谷山正司学校教育部長様より祝辞をいただきました。「学校林を使った活動は、どれも駒岡でしかできないものばかりです。学校の木はミズナラで、10年、20年かけて力を蓄え、たくさんの昆虫や小動物に住処や食べ物を与えています。みなさんがミズナラの木のように強くたくましく未来への夢をもってすくすく育つことを願っています。」子どもたちに向けて本校の校木（ミズナラ）をもとにその成長の様子と子どもたちへの願いを話されました。

谷口理恵ＰＴＡ副会長より、「森の木々と子どもたちは、手をかけるほど応えてくれるもの。子どもを子どもらしく育てる駒岡の発展をますます願っています。」と子どもたちと学校が発展していくことに期待を込めて開校60周年を祝福してくださいました。

祝う会では、60年間の歩みを振り返るスライドや子どもたちが取材・学習した内容を創作劇に仕立て、体をいっぱい使って表現しました。3・4年生は、「駒岡の昔」について同窓会長さんから取材したことを寸劇や大きな絵に表しました。1・2年生は、「駒岡の今（四季）」を歌やコールで体全体を使って表現し、学校林で集めた落ち葉をしおりにして参会者にプレゼントしました。5・6年生は、「駒岡の未来」についてこれからの駒岡を創造したり、未来に向けた自分への思いを発表しました。

この記念式典を契機に、本校の子どもたちが、未来に向かってたくましく成長していくことを誓うことができました。これからも、70年、80年…100年と駒岡小は、地域とともに歴史を刻んでいきます。今後とも地域の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

見晴・八区チーム２連覇　連町大運動会

体育部

8月30日（日）、芸術の森地区町内会連合会主催による、第15回芸術の森地区運動会が常盤小学校グランドにて開催されました。

当日は、衆議院議員選挙日と重なり、参加人数が心配されましたが、昨年以上の参加者となり、また台風接近による雨の予報でしたが、雨には当たらず曇り空の一日で、運動会日和の一日となりました。

競技は終盤まで大接戦、最後の百足競争で大逆転により優勝を得たのは、見晴・八区チームで、昨年に続き二連覇となりました。準優勝は、同点で百足競争で上位の石山東チーム、三位常盤団地となりました。

今年も最後まで大きな怪我人が出ることも無く無事に終えることが出来、常盤小学校校長先生はじめ先生方、各役員、町内会の皆様にご協力とご理解をいただきましたことを大変感謝致します。

入所サービス
ショートステイ
みなさまの想いにおこたえいたします
通所リハビリテーション
介護予防通所リハビリ

医療法人 愛全会
介護老人保健施設
アートヒルズ
〒005-0849　札幌市南区石山837-47
0120 Free Dial 0120-348-365

もりの仲間の子どもを見守るネットワーク主催
110番の家スタンプラリー
常盤小、石山東小、駒岡小
地域だからこそできる魅力ある取組

駒岡小学校　教頭　矢　嶋　一　昭

「110番の家スタンプラリー」は、地域の皆さんと子どもたちが一体となるすばらしい、魅力ある取組だと思います。

駒岡地区でのスタンプラリーの取組をご紹介します。

７月16日（木）本校児童が一斉に駒岡地区を回りました。真駒内駒岡町内会、駒岡団地町内会の協力を得て子ども会を主体にスタンプラリーを実施することができました。事前準備を子ども会の皆さんが中心となって綿密に取り組んだおかげで、価値・効果のある活動となりました。

地域の方々に先導され、両町内会を効率よく回ることができました。スタンプを押してもらうことが本当の目的ではありません。110番の家を知って、自分の安全を確保することと、もうひとつ大事なことがあります。それは、近所の皆さんと顔見知りになること、大きな声で挨拶をかわすことで心の交流ができるようになることです。そのおかげでしょうか？９月中旬に実施した本校の「持久走大会」でも、町内会の皆さんの多数の声援をいただきました。本当にありがとうございました。そのような活動を通して、子どもも大人も住んでいる人たちみんなが一体化していくと思いました。

また、スタンプラリーは、不審者への抑止効果だけでなく、交通安全を含めた危機管理意識も高まると思います。その第一は、「声かけ」です。顔見知りになると「おはよう」「気をつけてね」「そこを通らないようにね」など大人が子どもに気軽に一声かけるようになるのです。「声かけは、安全対策の第一歩」といわれています。

スタンプラリーを含めたいろいろな活動を通して、地域の皆さんに見守られ、子どもたちは安心して学校生活を送ることができるのです。今後とも地域の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

「こまおか朝市」実行委員会から　お知らせ

今年も多くのご利用をいただきありがとうございました。

この後冬季に入りますが、12月から４月の間休業させていただきます。

ただし、駒岡保養センターの行う２月11日「駒岡冬まつり」当日は店を開きたいと思っております。後日チラシでお知らせしますが、是非ご利用下さい。

明年もまた、よろしくお願い申し上げます。（担当野中）

［施設見学会］雑感

目的地である岩見沢市栗沢町最上所在の「福祉村」や見学内容等については、別途当事業所掌の福まち高齢者支援部担当者からお知らせや諸行事等で今後に生かされると思いますので、一推進員の雑感として思いつくまま、そして手短かに…。

10月26日は、生憎の小雨模様の上、昼食に立ち寄った千歳インデアン水車での期待したサケの遡上も、一匹も見つけられませんでした。ただ、さすが秋たけなわ、途中諸処の紅葉が盛りで皆の気持ちを癒してくれましたし、それよりもなによりも、利用バスの添乗員さんの博識ぶりには、驚かされもし、行きも帰りも全く退屈させない見学会ではありました。

◆添乗員さんのこと

休憩先「千歳サケのふるさと館」にかかわり、グレーリング（川ヒメマス）・ススハム（ししゃも）のことから、サケの回帰率・習性、あるいは超高齢者（100歳以上）の嗜好物、果ては松浦武四郎の生い立ちから「北海道」命名の由来まで、仕事とはいえよくもまあ流れるような弁舌でした。

倉敷かどこかの生まれといいましたか、「良縁を求めて来道しましたが、未だに…」と話す40がらみと思しい美人で、笑顔を絶やさない愚直なほどに仕事を大事にする方でした。

◆「山粧う季節」のこと

恵庭渓谷を通り千歳へ、そして千歳から通称道央国道（R337号）を通り、長沼市街を抜けて同234号に出、一路目的地「福祉村」を目指したわけですが、道央国道沿線等に点在する農家の庭先を含めて、“山粧う季節”そのままに色彩を極めた木々が、そして目的地「福祉村」もまた、葉を落とせば落ちたなりに美しいカラマツ林を目にする小高い丘で、それもこれも季節に見合った風景を用意して迎えてくれました。

◆総じて

「川で孵化したサケの稚魚は、決って満月の夜を待ち、８時から10時の間に海に泳ぎ出すそうです。」（前述添乗員吉田嬢の言）

私たちも、鮭の一生のように、区切りある自他ともに納得できる仕事を望みたいものです。そしてまたこれまで同様“福祉の難しさを再認識する“いつか来た道”の見学会でした。

（H）

編　集　後　記

「結構　年嵩の人に限って“若さ”とか“元気”をひけらかす傾向があるナ」、「“元気”なところを見せることで、自分自身を奮い立たせているんじゃないのかネ」とは、今年の連町運動会々場での若者同志の語らいの一コマです。

ここでいう、“年嵩”とはどの年代を指しているのでしょうか。私たちの広報「芸術の森」はその“年嵩の人”として引き合えるほどの歴史はない、とは思うものの創刊して早や６年余、初心に立ち返り「空元気（からげんき）」とみられないよう、地道に歩み続けてまいりたいと思っています。

今後とも変わらぬご支援、ご投稿をお願いいたします。（堀川）

広報「芸術の森」編集委員会

委員長	堀川　昭八	委員	大滝　盛弘
副委員長	三上　良子	〃	佐々木智明
委員（会計）	佐藤　宗昭	〃	火山　正己
〃（監査）	馬場　宏		